広報いながわ

編集・発行
猪名川町役場
企画室
TEL（中谷）1・31

10月末日現在の世帯と人口

人口 6,890人　男 3,404人　女 3,486人
（前月より26人増）
1,444世帯
（前月より6世帯増）

食える農業への動き

〝構造改善〟事業始まる

農業の体質や仕組みを根本から変える、いわゆる〝農業構造改善事業〟が、この十二月から工事にとりかかりました。

総事業費は一千九百二十六万円。計画のあらましはすでにお知らせした通り、三年がかりで清水阿古谷両地区（参加農家二十一戸）に大規模クリ園を造成しようというもの。第一年目は阿古谷地区に長さ一二四五㍍、巾三五㍍の農道が工費六百二十九万円で、清水地区は十二・五ヘクタールのクリ園造成と、長さ約一・五㌔の園内農道二事が、工費約一千二百九十万円で進められ、クリ園には六千二百本の苗木が植えられる予定です。二年目は阿古谷地区に十三・四五ヘクタールのクリ園をつくり、六千七百本の苗木を植え

事業の仕上げが終わるので、静かな山あいに広がる大クリ園は〝クリ選果場〟を設けて構造改善事業の仕上げが終わるので、静かな山あいに広がる大クリ園は町の観光にも大きな役割をはたすものと期待されています。

この事業でみこまれる収益は、年収一千二百万円で、十アールあたりは、五万円。年収百万円以上をさらに上げるでしょう。そして

農林畜産共進会

町と六瀬、中谷農協が十七、八日中谷中学校でひらいた酒米、畜産、しいたけ品評会は、酒米百十三・四五ヘクタールのクリ園造成と、長さ約一・五㌔の園内農道二事が、工費約一千二百九十万円で進められ、クリ園には六千二百本の苗木が植えられる予定です。二年目は阿古谷地区に十三・四五ヘクタールのクリ園をつくり、六千七百本の苗木を植え

酒米の部

知事賞・水越政子（槻並）神戸尾崎　治　五七一票

農林畜産共進会

古谷）県酒米振興会長賞・切通明男（原）一等・仲上貢（上阿古谷）村山久夫（南田原）

鶏卵の部

神戸農林事務所長賞・長崎永太郎（原）一等・今西隆雄（原）二等・野間與夫（内馬場）福井繁（笹尾）三等・田中四郎（万善）福中重一（上野）川上利一（笹組）北上善之助（北田原）。

和牛の部

知事賞・槻健一郎（上阿古谷）畜連会長賞・塩川貞次（上阿古谷）共済連会長賞・中林勝吉郎（柏原）一等・前中幸次郎（出原）二等・仁部良太郎（上阿古谷）栗林弥三郎（柏原）三等・平尾春雄（柏原）田中忠治（槻並）倉本庄太郎（上須寺）

しいたけの部

神戸農林事務所長賞・下良一義（柏原）一等・仲治（木間生）仲富雄（木間生）二等・村山篤次（南田原）中田亀一（猪渕）田中恒二（柏原）平井正一郎（柏原）三等・森中宏（南田原）・上殿清（下阿古谷）・上東武雄（肝川）上殿光子（下阿古谷）吉仲貞二（槻原）

知事選の結果

金井元彦　二、一五一票
中島祐吉　一〇七票
尾崎　治　五七一票

兵庫県知事に、金井元彦氏が当選したのは、ご承知のとおりです。そこで町の投票状況をお知らせすると、当日有権者数は男一千二六人、女一千二百六四人、合計二千三百四人、全体の投票率は六六・六〇%、男六九・三〇%、女六四・一八%で、三千七年の知事選にくらべ、男は〇・六五%たかく、女は三・八八%低いという成績でした。

なお、投票所別では第五投票所（槻並）のセ九・二五%が最高でした。

北から南から

六瀬中で自転車検査

学校安全の日の十五日、六瀬中学校はいつせいに、生徒の通学用自転車の点検査をしました。

同校生徒二百四十三名のうち七〇%にあたる百七十二名が自転車通学。さきの交通安全週間に、川西警察署員が交通ルールの指導をうけたとき、車体整備のたいせつなことに気づき、実施することにきめたもの。

この日は午前八時半の朝礼に、登校してきた自転車百七十二台について検査したが、うち二十五台が不良車で、まず〆ずの好成績でした。

不良車のなかで多かったのは、ならないベル、つづいてくらいランプで、尾灯のこわれた車と自立ち、いずれもその場で注意ました。

坂道が多いのでブレーキは、みなよく きくようだったが、完全でない自転車は技術科の時間になおさせました。

なお、同校では、いままでまだ大きな自転車事故がでていないので、月一回は抜きうち検査して、交通安全を徹底したい考えです。

ずらりと校庭にならんだ自転車を検査する
（六瀬中学校で）

六人にごほうび

すぐれた乳幼児

ことしの猪名川町一の赤ちゃん三歳児がきまりました。

これは九月に行なった乳幼児検診を受けた三百四十六人の赤ちゃんから選ばれた次の六人で、十八日に中谷中学校で表彰式があり、町から毛糸、伊丹保健所から離乳食食器セットなどたくさんのごほうびをもらいました。表彰は次のみなさんがた。

乳児

西浦幸男ちゃん（柏梨田）喜多一美ちゃん（広根）佐伯部好生ちゃん（彩生）辻井智江美ちゃん（槻並）

三才児

西村勇次ちゃん（栄合）村治和加子ちゃん（柏梨田）。

たとえ〝わずか〟でも

〝歳末たすけあい〟はじまる

身寄りのない博愛な、とし老いた人、肉親もない不幸な児童、ことより、小学生をはじめ、個人の方々から多くの金品をおよせいただきました。本年もかわらないご協力をお願いします。寄贈の品はたすけあって年の瀬を、そしてすべての人たちが、明るい新春を迎えよう、という恒例の〝歳末たすけあい運動〟が、きょう一日から行なわれています。

さんの人たち、個人会の団体はもちれら個人たちに、たとえ僅かでも心のこもったものをもとよって贈ろうというものです。昨年もたく

どうしてうつのかな……
バーズカ砲をのぞきこむ中学生ら

「村山久雄（南田原）、「親子と鶏子」村山稔（南田原）「金山神社」橋本金一（銀山）、「卵の集荷場」（県道福井長辰（北田原）「静物（万善）、「渓流岩辺」宝住（万善）、「渓流に映る岸（原）、「土に生き」水越陸夫（槻並）、「銀山にのぼり、昨年にくらべ、それぞれ二万二百九十四円、八百七十万三千円ふえています。

出場数はメス二十七、オス二十四頭で昨年とほぼ同数、町内近郊の飼育農家約百人がみまもるなかで、次々と競売が行なわれました。市況は最近の肉不足を反映して高値を呼び、最高は牛後二百六十日のメスで四万七千八百円。平均は九万三千六百四円で、総売り上げ額は四百八十二万九千百円にのぼり、昨年にくらべ、それぞれ二万二百九十四円、八百七十万三千円ふえています。

平均は九万三千六百円

ことしの子牛せり市

十一月恒例の川辺畜連主催〝子牛せり市〟が、二十五日午前十時半から、川床口畜産市場でひらかれました。

隔四半院農村センターは、十二月十五日から七日の三日間、三田市香下にある関西学院千刈キャンプ場でひらきます。

時間は毎朝九時半からで内容は「農業の将来や、近郊農業のありかた」につき大阪府大学教授や酪農家の講演などがあります。

どなたでも自由に参加でき無料です。

問合わせは町役場農業改良普及員へ。

18日中谷中でひらかれた子牛の共進会

観光産業写真コンクール

町がさきに募集していた写真コンクールの審査会が二十六日町役場で行なわれました。

観光、産業が主題とあってやはり屏風岩、鍋山、大野山など町内名所をうつしたのが多く、陶器や卵の集荷など農作業のスナップもかなり ありました。

選評をご紹介すると「作品は粒揃いで全体のレベル向上がうかがえた。欠点はピントがやや甘く、カメラブレの傾向があることで、光線やアングルも、もう少し考慮すればさらによい作品ができただろう。」とのこと。審査の結果次の方が入選にきまりました。

推せん（農繁期）中田孫一（南田原）特選一席「楽しいクリひろい」中間松治（柏原）。特選二席「猪名川のしいたけ」岡田良一（肝川）。入選「静かなるいき

バーズカ砲に人気集まる

目で見る自衛隊展

十一月十八日中谷中学校で催された農林、畜産物品評会の会場で「目で見る自衛隊展」がひらかれました。

これは自衛隊兵庫地区伊丹業務所が、自衛隊の姿や任務を、広く知ってもらおうとひらいたもの。展示は、陸、海、空自衛隊の活躍を紹介する写真やグラフ二〇点のほかオートスライドの映写など。なかでも銃類は最近のガンブームを反映して人気が集まり、バーズカ砲の小銃を手にした中学生が、案内の自衛隊員の説明を興味深そうに聞いていました。

年の瀬です

火の用心をお忘れなく

空気の乾燥――寒さ――火、と火災の条件がそろった季節がやってきました。寒いとき火が恋しいのはだれでも同じです。問題は、火を生活の中に正しく活かして利用することです。最近多い石油コンロによる火災も、その取扱い不注意が原因となっているようですそこで、その注意事項をあげてみると①コンロは、燃えにくい台の上に、水平に置くこと。③火のついたまま移動しないこと。③火を消したら完全に消えていることを確める。④コンロやストーブの手入れをマメにすることなどです。火事は、用心さえすれば防げます忙しい年の瀬が訪れますが、火災だけは出したくないもの。くれぐれもご用心の程を。

税務署ではいま、事業家のみなさんに自主申告納税ができる「青色申告」をおすすめしています。「青色申告」を するためには、来年三月十五日までに青色申告承認申請書を税務署に提出、承認をうけ、資料となる帳簿を備えつけるなどの準備が必要です。

人権法律相談所の開設

伊丹人権擁護委員協議会は十二月九日午前十時から町役場で、人権に関する問題などにつき、橋本忠一人権擁護委員が相談にあたります。ご利用ください。

経営合理化にもなる
青色申告をどうぞ

売掛帳、買掛帳、経費帳、固定資産台帳などの簡易なもの。とくに「青色申告」をするためには、来年三月十五日までに青色申告承認申請書を税務署に提出、承認をうけ、資料となる帳簿を備えつけるなどの準備が必要です。

人権法律相談所の開設

伊丹人権擁護委員協議会は十二月九日午前十時から町役場で、人権に関する問題などにつき、橋本忠一人権擁護委員が相談にあたります。ご利用ください。

正月用品、白米、衣類などのほか現金、近く婦人会を通じ、地区ごとに各戸に呼びかけこの運動のとりまとめをしていただきますのでそのときはよろしくお願いしますなお、金品をご希望の個所へ届けたいと思われる方は、町役場兼務銀行へご持参ください。

振帳といっても、現金出納帳、

阿古谷小学校と大島小学校柏原分校は、いずれも複式学級です。児童数はそれぞれ47、32名（柏原分校は4年生まで）で、大島小もへき地校に数えられています。ここで学ぶ子供たちはどんな教育を受けているでしょうか。猪名川町の一角、へき地といっても大阪へ約1時間半という近さ。ほんとうのへき地とは大分意味が違うかも知れません。やがてはとどまって町の発展につくす者、出て他地域で活躍する者もあるでしょう。多くの問題を抱えながら、きょうも先生方の努力が続いています。社会に役立つ人間の基礎を培うために。

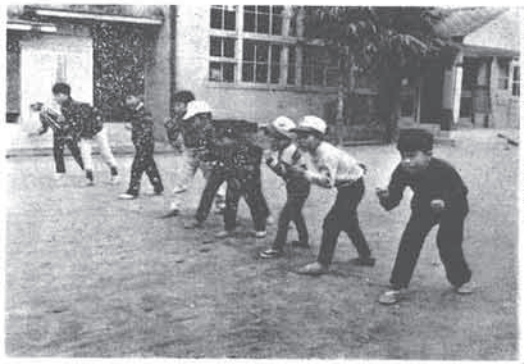
先生の質問に元気よく手を上げる子どもたち（右）とシンクロフォックスを使っての授業（左）阿古谷小学校での、へき地教育研究発表会の公開授業

ある女教師の記録から

いやがる子を集団の一人に

繁田喜子

「おかあちゃん！　おかあちゃん！」その泣声は、教室中にひびきわたるほど大きなものでした。一年生のYさんすら々の時間こどもたちが数をかぞえ、それを帳面にうつしているときでした。



いっせいにスタート、こんな遊びにも子らの集団生活があります。柏原分校で

私が、ただ一人手を動かそうとしない T君をみつけ「一つずつ書いていきましょうね。」とやさしくさとしたところ突然泣きだしたのです。

あまりの大声に、たまたま来校中の父兄からの客にきまりました。T君は急に泣きやんで学まで成長してくれたのです。

一人一人の子たちの性格を探くし、見つめるとき、T君に似た努力のいる子がまだまだあります。へき地教師はこうした開拓を重ねて行かねばなりません。

夕ぐれの冷たい空気の流れこむ教室の窓辺で、思い浮かべる三十名の可愛い顔と顔。赤いほっぺに涙を流してノートをとるいじらしいT君の姿。書きあげたT君に思わず頬ずりする瞬間、頭せずしてT君の手がわき起った感動的なシーン。あかね色に染まった備後のパとの三人の根くらべが続きました。そして二学期。T君は友達と「君らなにが好きや。ぼくは算数大好きや。」と話し合えるようになる四十一年春、丹波野小へ転任）

六人兄弟の末っ子として、わがままいっぱいに育ってきたT君は不満を乗り越えていく意志力が大事山村によくある内向的排他的な面があるようです。集団の制約なことは泣いて否定するのです。

私はきつづける君を励ましました。いま妥協してはこの子を正しい姿勢にもどすことは出来ないと。

なんとかしなければ！　思わず手にしたT君の下じき机を叩いたら、それは半分にわれてしまいました。

子らへの愛情が支え

へき地勤務の先生たち

へき地の子供たちはそぼく、従順で、おちつきがあり、健康状態もよく、作業などまじめに行なう一方、自主独立の精神にやや劣りたくましさに欠けているように思うとは学校側の話。それにT君のような子供も多いのです。

先生方の苦労も大変なもの。小規模学校という限られた条件のなかで児童が個人として、また集団の一人としてもじゅうぶん伸ばされるような学習指導が要求されるからです。人づくりの基礎となる学校内外の環境整備にも注意を払わねばなりません。

それでなくても複式学級は労力がかかります。教材もその準備もそれぞれ一学年分が必要です。授業はいつも二つの道を歩くようなもの。その忙しさは説明のしようもありません。

それなのに「やればやる程、楽しみも生きがいもある。」先生方はこう言います。「へき地勤務は病気になれぬ。休んだのでは学校がまわぬ。」というきびしい現実においてです。挑戦と学びともたい情にほかなりません。

「指定教員の副賞など、先生がをしっかり見つめて、ひとりひとりにゆきとどく教育。その地味な努力を支えるものはなんでしょう……」さきごろひらかれた〝へき地教育研究発表会〟のとき聞かれた県下へき地校。」それは子らへそそぐ限りな動務の先生方の声でした。

教室の当番は二人だけ。はいてふいて、花をかえる。動物のえをやり、学校の帰りに新聞配達もする。その他もろもろ。こんな毎日でも文句をいわぬ。街の子や親に一度見せてやりたい。

県へき地連発行、兵庫「なま土」から。

写真は柏原分校で動物のえをきざむ子どもたち

この教育をみつめよう

夢多い子に育てよう

「へき地教育研究会」から

「複式に始まり複式に終わる」という、へき地教育の実態をみきわめ教育効果を向上させようという「へき地教育研究発表会」が、十一月二日阿古谷小学校でひらかれました。

この日集まったのは、但馬、丹有、東播など県下小・中学校で、へき地教育にたずさわる先生ら約七〇名。「ひとりひとりの能力を最大限に伸ばす学習指導」を主題に真剣な討論が続けられました。

阿古谷小学校は、複式学級三つだけをもつ小規模へき地校。複式学級といわないまでもなく、同じ時間に一人の先生から、二つの学級の生徒が授業をうけること。人数が少ないとはいえ、一人の先生が二つの学級を受け持って、どのように普通学級と同じような学習効果があげられるか。どうすれば子供自身が意欲にもえ、ひとりひとりにゆきとどく教育が進められるか。この研究が公開授業と、三人の先生による発表のかたちで行なわれたのです。

複式学級を受け持つ先生の悩みは教材がおくれること。また、間接指導を受けている学年が、作業をしている学年の方に興味をひかれ、自分達の学習に身が入らないことといわれます。

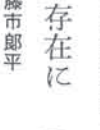
このため複式学級独自のカリキュラム（教育課程）をたてるとともに、さらに科学教具を使用して視聴覚に訴える学習をすすめる一方、児童自身の自主的な学習態度を培うことなどがあげられています。この点から公開授業や、研究発表では〝理科における同時間単元展開〟や〝理科における同時間単元異程度による学習指導〟などとりあげられました。「同時間単元異程度とは、二つの学年が同じ時間に同じ教科を学ぶもので、教材はそれぞれの学年にふさわしいものが選ばれています。これが学年ごとに違う教科を学ぶのと違い、能率がよい上授業の導入から展開、整理までが効果よく進むといわれます。また研究発表では、同時間単元における学年差やシンクロ使用の能力は、レシーバーを耳にあてれば録音されてある先生の声が聞こえ、機械の中のシートには、先生の字がはりつけてあるという画期的教具。直接先生から指導を受けている児童と同じ効果と、目と耳と使うので他学年の万へ興味をひかれる利点があります。しかし後の研究発表では、同時間単元における学年差やシンクロ使用の能力は、レシーバーを耳にあてれば録音されてある先生の声が聞こえ、機械の中のシートには、先生の字がはりつけてあるという画期的教具。直接先生から指導を受けている児童と同じ効果と、目と耳と使うので他学年の万へ興味をひかれる利点があります。しかし後の研究発表では、同時間単元における学年差やシンクロ使用の能力

よりよい教育を進めるために神間の教育一の横に二本の野菊町内七千余人の心が一つになり、よい環境を育てていかねばならないと思います。これと同じ意味で県へき連でも、振興会の結成を推し進めています。

野菊のような存在に

可藤市郎平

県下のへき地校を見ますと、猪名川町などは都会です。それが、どうして〝へき地〟と言われるのでしょうか。



大輪の菊の花（はなやかな感じ）解決したいものです。

神間の教育一の横に二本の野菊の花（じみな猪名川町の教育）といった対象的な地域にあるからだと思います。私は温室の菊花よりも、清楚で根強く生きて行ける野菊であってほしいと思っております。

そのためには、縮まらない距離を電波によって（機会によっては）

しかも教育は人に作りと言われるとおり何とかして、よい先生をたくさん迎えて〝猪名川町へなら行きたい〟というようになってこそ、へき地教育は解消すると思います。

県へき地連盟会長、大島小学校長